

視 察 調 査 報 告 書

委 員 会 名	総合計画等検討特別委員会
参 加 者	委員長 蜂須賀 喜久好 副委員長 野本 篤 委 員 鈴木 雅子 荻野 秀範 杉浦 久直 井手瀬 絹子 三宅 健司 原田 範次
視 察 日 時	令和元年 5 月 16 日（木）10:00～12:00
視察先・概要	栃木県宇都宮市 人口：513,835人 世帯数：21,125世帯 面積：416.85 k m ² 特記事項：住みよさランキング2018（東洋経済）総合101位 （安心287位、利便192位、快適102位、富裕88位、住居649位）
視 察 項 目	「第 6 次宇都宮市総合計画」について
視 察 概 要	1 策定の趣旨 総合計画は、宇都宮市の都市経営の最上位の方針となるものであり、市民・事業者・行政などの構成員が一体となってまちづくりに取り組むため、その基本的な考えや目指す将来の姿を示し、これからのまちづくりの指針となる第 6 次宇都宮市総合計画を策定した。 2 構成と期間 (1) 基本構想 総合的で計画的な行政運営を図るため、目指すべき「将来のうつのみや都市像」や、まちづくりの基本方向などを示すもので、まちづくりのビジョン（未来像）と言えるもの。2050年を目標年次とする。 (2) 基本計画 基本構想で定めたまちづくりの基本方向に即して、「将来のうつのみや像（都市像）」を実現するために必要な基本的取り組みを示すもので、まちづくりのプラン（手段・方策）と言えるもの。計画期間は前期 5 年、後期 5 年の計10年間(2018年度から2027年度まで)とする。 (3) 実施計画 基本計画に掲げた取り組みの具体的な進め方を示すもので、まちづくりのプログラム（実行予定表）と言えるもの。計画期間は 3 年程度とする。 3 市民参画 (1) 市民懇談会 ・さまざまな分野の市民の代表からまちづくりに関する意見や第 6 次総合計画に盛り込むべき内容等を意見書にまとめ、提言を行っ

	た。 ・学識経験者（６人） 関係機関及び関係団体の役職員（１７人） 公募委員（３人）の計２６人で構成。 (2) 各種団体等（地域、企業、学生等）との意見交換 ・大学における総合計画の説明と意見交換の実施 ・ジュニア未来会議に参加した小中学生へのアンケート調査の実施 ・大学生によるまちづくり提案への情報提供 (3) 市民アンケート ・宇都宮市の強み・弱み、今後の重点項目、市民満足度について調査の実施 4 計画の特徴 目指すべきまちの姿として、六つの「未来都市」を示し、その実現に向けた取り組みの推進に当たっては、それぞれの取り組みが密接につながり、相互に連携・補完し、人づくりとまちづくりを一体的に進めることで、各未来都市の実現に向けた取り組みが他の未来都市の実現にも好影響をもたらす「まちづくりの好循環」を生み出していくとされている。
所 感 視察しての感想 や岡崎市への提 言など	・表紙に目指すべき姿を絵で示し、かつカラフルになっており、市民に向けて親しみやすさを追求した感が見える。また、市民満足度調査を意識した進捗管理に強い意気込みを感じる。「市民向け」を意識するとともに、自治体の課題を、総合計画を通して「市民と共有」する姿勢を強く感じた。 ・分野別計画の施策の指標として、産出物、直接成果を目標値として持つ点では、わかりやすく、総合計画が身近になる可能性がある。大学生のまちづくりへの参画を行政が視野に入れている点は重要であり、学べべきものがある。ただし、市長がかわった場合の対応はどこでも課題となるが、事業内容は市長の意向を反映したものではないということである。 ・宇都宮市は、多くの大学がある地域で、大学生の意見を取り入れるための手法が取り入れられており、本市としても大学生の意見は取り入れるべきだと感じた。各施策の目標が細い点で設定されており、本市も必要であると思う。 ・宇都宮市の第６次総合計画となる「未来都市うつのみや」は、2050年を目標とする将来都市像を「輝く人の和」、「つながるまちの環」、「魅力と夢の輪」としているが、その三つのキーワードに共通する「わ」が、市内をぐるっと循環する日本初の本格的な環状道路の「環」を想定させるように、市の特徴、将来への想いを強く反映したものとなっていると感じた。ネットワーク型コンパクトシティを標榜し、交通を将来の都市像としてしっかり位置づけして、長期的な取り組みを進めているところは見習うべきところである。また、「未来都市うつのみや」はイラストを多用し、市民にしっかりイメージを共有してもらえようようにすると

	もに、ポケット版を作成し、中学３年生の授業での活用、高校・大学への出前講座など、本市でも参考とすべき点が多かった。 ・宇都宮市においても基本構想の目標年次である2050年に第一線で活躍している現在の10代、20代の市民の理解、浸透に力を入れている。策定に当たり市民参画を重要視し、市民アンケート、各種団体等（地域、企業、学生等）との意見交換の実施、小中学生へのアンケート調査等を行い、多くの意見を集約し反映している。中でも宇都宮高校では、夏休みの課題研究で第６次総合計画を取り上げ、グループで研究している。審議会の体制も、三つの分科会においてワークショップで意見交換を実施、全体会で意見の集約を行い反映させている。特に注目した点は、第６次総合計画概要のポケット版を作成し、中学３年生全員に配布、公民の授業で活用し、高校生、大学生にも配布しているとのことで、本市においても参考にするとともに多くの市民参画を要望したい。 ・総合計画審議会で公募委員から「市民みずからが自助、共助の意識を持たなければならない」という意見が出て、行政としてうれしく思い、また頼もしいと感じたそうである。市民一人一人の意識の持ちようが大切であると感じた。まちづくりの設計図である総合計画を実現するためには市民の意識の持ち方が重要であり、本市においても同様であると考え。総合計画は難しいイメージがあるので、行政用語にこだわらないわかりやすい表現や、総合計画の内容を見てみようと感じるデザインも取り入れ、親しみやすい第７次岡崎市総合計画にしていきたい。 ・少子・超高齢化社会、人口減少の突入に、第６次宇都宮市総合計画は「６つの未来都市」とまちづくり好循環プロジェクトが三つの環として具体的に計画がつくられている。総合計画のレベルが高く「目からウロコ」であった。本市が30年、50年先に向けて予算化ができるのか、力量が問われる。絵に描いただけではない岡崎市総合計画を質問で質したい。
委員長の総括	第６次宇都宮市総合計画は、長期ビジョンとして2050年まで基本構想を立て、人口減少、少子高齢化社会の進行や社会経済環境の変化などを踏まえ、まず「子育て・教育の未来都市」、２として「健康・福祉の未来都市」、３として「安全・安心の未来都市」、４として「魅力創造・交流の未来都市」、５として「産業・環境の未来都市」、６として「交通の未来都市」をまちづくりの基本方向として30年の基本構想を立てている。 宇都宮市にとって最大の対応課題は、女性が働ける環境と人口減少にどのように対応するかであり、人口はどの自治体においても要であると感じた。そのほか、宇都宮市では策定後にも30年後を担う学生に総合計画への関心を持ってもらう取り組みを積極的に行っており、将来都市像の実現に向けて大変有効な手段と考える。